



ベニズワイガニ日本海系群 令和4年度資源評価結果

生物学的特性



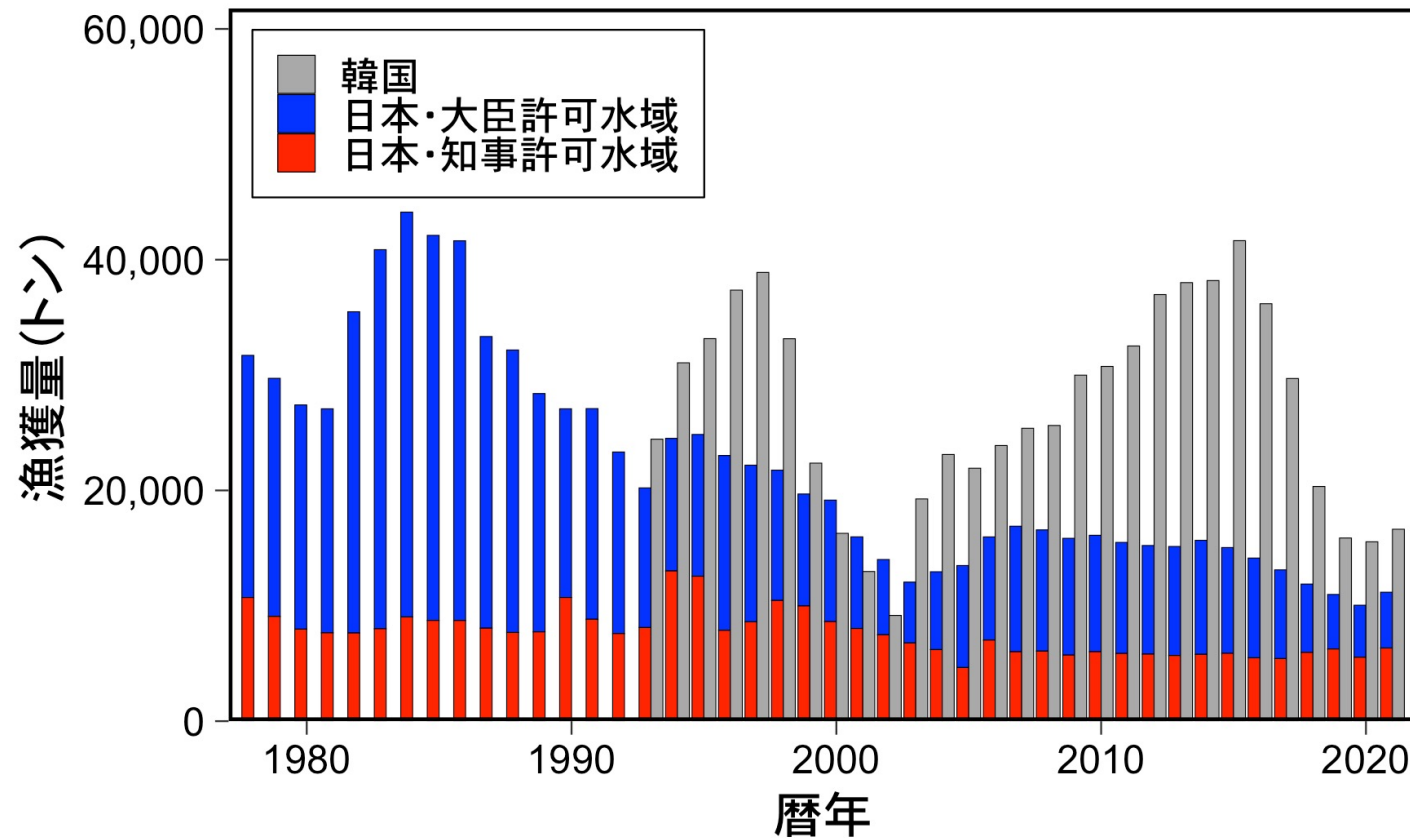
生物学的特性

- 寿命：10年以上
- 成熟開始年齢：飼育実験下で雌は10齡期または11齡期への脱皮が成熟脱皮（7～8年）、雄は不明
- 産卵期・産卵場：主産卵期は2～4月、隔年で産卵し抱卵期間は約2年
- 食性：イカ類の他、エビ類、カニ類（共食い含む）、ヨコエビ類などの甲殻類、微小貝類、小型魚類など
- 捕食者：アゴゲンゲ、ドブカスベ、ツチクジラなど

- 水深1,000～2,000 mを中心に分布する

漁獲の動向①

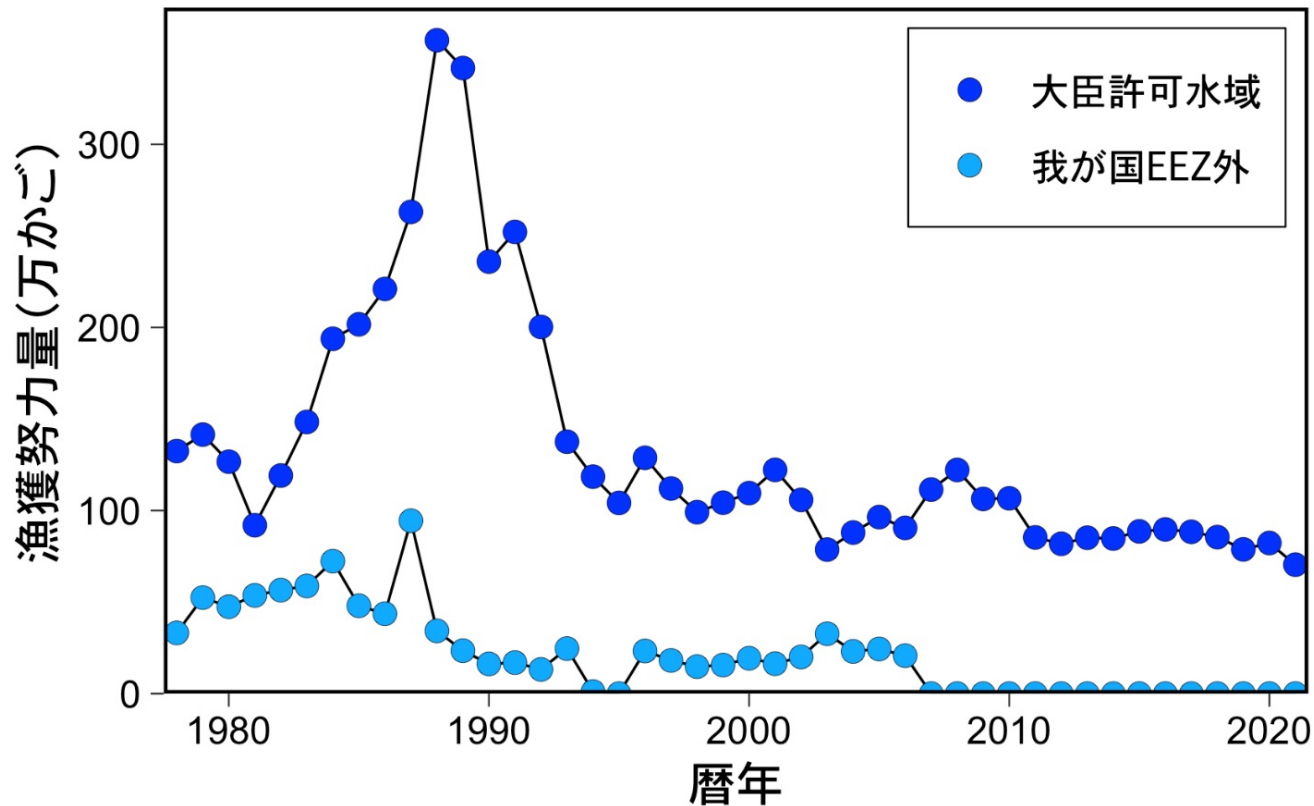
3



- 操業海域の異なる知事許可漁業と大臣許可漁業がある
- 大臣許可水域の漁獲量は7年ぶりに増加に転じた
- 知事許可水域の漁獲量は2007年以降ほぼ横ばいで推移
- 2021年の日本漁獲量：11,179トン（2020年：10,052トン）
- 2021年の韓国漁獲量：16,637トン（2020年：15,549トン）

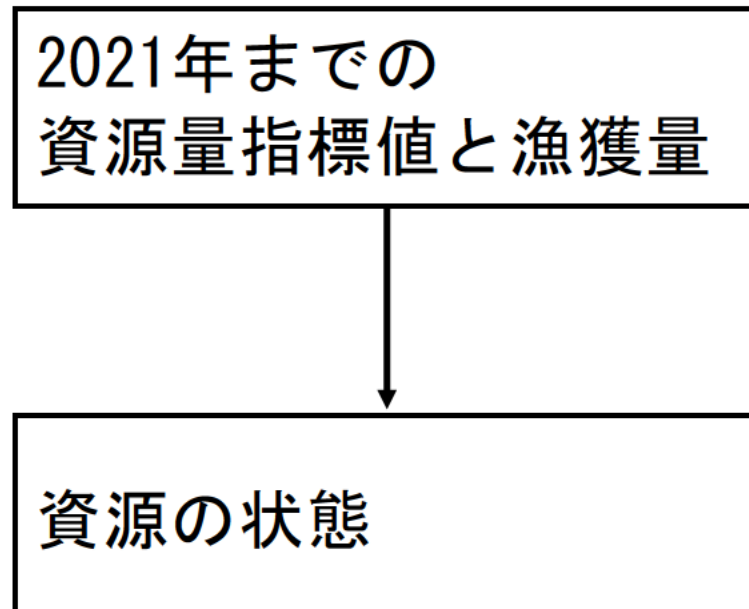
漁獲の動向②

4



- 大臣許可水域の努力量は、1988年に350万かごを超えたのち、急激に減少
- 2007年以降我が国EEZ外で操業できなくなったため大臣許可水域へ漁場が移動し、大臣許可水域の努力量が一時的に増加
- 2010年以降は80万かご前後で推移し、2021年は70.4万かご

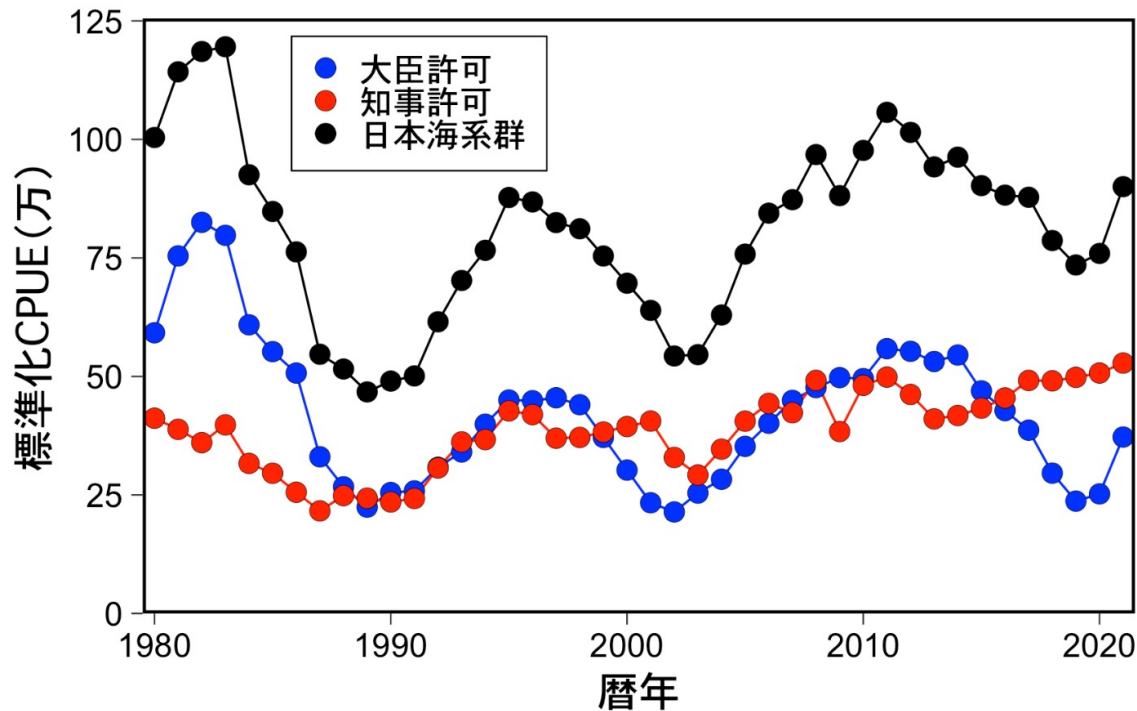
資源評価の流れ



管理に係る目標等の基準値、資源の動向などについては、
本年度中に開催される研究機関会議資料に記述します

資源の動向

6



- 大臣許可水域：資源量指標値（標準化CPUE）は2016年以降大きく減少し、2019年には過去最低に近い23.7万まで減少。以降増加し2021年は37.2万
- 知事許可水域：長期的に25.0万～40.0万の範囲で推移し、変動幅が小さい。2004年以降は緩やかな増加傾向にあり、2021年は過去最高値の52.8万
- 日本海系群：2010年以降減少、2021年は増加に転じ90.0万

資源評価のまとめ

- 大臣許可水域：資源量指標値は2016年以降大きく減少し、2019年には過去最低に近い23.7万まで減少。以降増加し2021年は37.2万
- 知事許可水域：資源量指標値は2004年以降緩やかな増加傾向にあり、2021年は過去最高値の52.8万
- 日本海系群：資源量指標値は2010年以降減少、2021年は増加に転じ90.0万

管理に係る目標等の基準値、資源の動向などについては、本年度中に開催される研究機関会議資料に記述します